

# 『農楽里norari』 vol.40配信



## 第681回 ～2021年春号 配信しています～

元気な農山漁村をつくっていききたい。農山漁村の自然や景観の保全活動に関わりたい。

農楽里(norari)は、農山漁村づくりに関心のある方、参加してみたい方、すでに参加している方を対象に、県内各地の地域情報を発信し、新たなコミュニケーションの場づくりを提供する職員手作りの情報誌です。

【最新号】vol.40 2021年春号は、山形県HPで配信されており、ご覧になることができます。

[やまがたの農山漁村づくり情報マガジン「農楽里\(norari\)」](#)



今回は、花笠踊り発祥の地として有名な尾花沢市の農業用ため池「徳良湖」の築堤100周年を記念し、尾花沢市長と村山総合支庁農林技監の対談を掲載しています。

庄内からは、庄内地域で唯一の農業高校である庄内農業高校の取り組みを、山形の食では春に旬を迎える湯田川孟宗を紹介しています。

ぜひご覧ください。

なお、この度の人事異動により5代目NN・REIKOが就任しました。

引き続き、皆さまへ庄内の農業農村整備の『旬』をお伝えして参ります。

今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

# 春の大綱へ



## 第682回 ～棚田の春～

だんだんと暖かく過ごしやすい季節になってきました。

本日は、鶴岡市大綱へ行ってきました。

平地ではほとんど散ってしまった桜ですが、標高190～380mの中山間地域である大綱では、現在も花が咲いていました。



大綱といえば棚田が有名ですが、棚田で収穫したお米を「棚田米」として売り出しているのをご存じでしょうか。

令和2年度には、鶴岡市のふるさと納税返礼品として販売していました。

今年度も様々な活動で棚田をPRしていく予定ですので、ぜひご注目ください。



# 国営「赤川二期地区」現場研修会



## 第683回 ～ICT水管理施設の操作を学ぶ～

4月12日（月曜日）と4月22日（木曜日）に、東北農政局赤川農業水利事業所よりご協力いただき、国営「赤川二期地区」現場研修会を開催しました。

本研修会では、情報通信技術（ICT）を活用したポンプ設備と自動給水栓の操作方法を学びました。

水田の水管理は、ほ場に足を運び、目視で水位を確認しながら手作業で給水栓を調整しています。しかし、規模が大きいのほど見回りに要する労力が多くなり、負担となっているのが現状です。

この労力を削減するために開発されたのが、情報通信技術を活用した水管理システムです。

このシステムは、水位水温計を水田に設置し、スマートフォンやパソコンで遠隔操作して水位を調整する仕組みとなっており、水管理にかかる労力の低減、用水の効率的な活用が期待されています。

4月12日の様子



4月22日の様子



# 乾田直播 現地見学会



## 第684回 ～大区画ほ場にて～

4月23日（金曜日）に、乾田直播の現地見学会に参加しましたので、その様子を紹介します。

乾田直播とは「畑状態で耕起、整地したほ場に種をまき、苗が生長したら田に水を入れて稲を育てる」栽培方法で、効率的に作業できることから、大きな面積のほ場に適しているといわれています。

見学会は、もともと7枚だったほ場の畦畔を撤去し、1枚（約2.1ヘクタール）に整備したほ場で行われました。

上空から見ると、とても大きいことがわかります。



今回は、高速汎用施肥播種機による播種作業と、ケンブリッジローラーによる鎮圧作業を見学しました。

鎮圧作業は、ほ場表面の凹凸を均し、種子と土壌を密着させるために行います。



とても大きなほ場ですが、乾田直播により、播種作業が約2時間、鎮圧作業が約1時間で完了するため、春先の営農にかかる労力の低減につながっているそうです。

# 鳥海山の種まき爺さん3



## 第685回 ～春の訪れ～

第673回、第677回で紹介した、鳥海山の種まき爺さんの現在の状況をお知らせします。

[第677回 2021年3月9日 鳥海山の種まき爺さん2](#)

前回の更新から1か月以上経過し、鳥海山の雪解けもかなり進んできました。



4月16日に撮影した種まき爺さんの様子です。

庄内の春の訪れを告げる種まき爺さんの雪形も、確認できるようになりました。

庄内地域では徐々に営農作業が始まり、田植えに向けた準備が進んでいます。

# 庄内の郷土食「笹巻き」



## 第686回 ～健やかな成長を願って～

端午の節句に、子どもの成長や家族の安泰、無病息災を祈って作られる「笹巻き」。

水に浸けたもち米を笹の葉で包み、いぐさなどで結んだ後に熱湯で茹で上げて作られます。

笹の葉は防腐・抗菌性があるとされ、昔から保存食などに使われてきました。

笹の葉をほどいてみると、米粒が白いものと黄色のものがありますが、違いが生じる理由をご存じでしょうか。

これは灰汁（あく）の作用によるもので、浸水液や茹で汁に灰汁の上澄みを使用すると、米粒が黄色になりぶるぶるでもちもちとした触感になります。

庄内の中でも地域ごとに作り方が異なるため、様々な種類の笹巻きを食べることができます。

ぜひ、庄内の春の味覚をお楽しみください。



（写真は、黄色の笹巻きに黒蜜ときなこをかけたものです。）

# 庄内の郷土食「孟宗汁」



## 第687回 ～山の恵みをいただく～

庄内地域は孟宗の群生地最北端として知られ、5月中旬に旬のピークを迎えます。

収穫してから時間が経つとえぐみが強くなるため、新鮮なものほど味が良いといわれています。

この孟宗を使った庄内の郷土食が「孟宗汁」です。

孟宗汁は庄内の家庭料理として根づいており、この時期になると多くの家庭でつくられています。

山形県が発刊している情報誌、農楽里vol.40（2021年春号）では、鶴岡市の湯田川孟宗を紹介しています。

孟宗汁のレシピも掲載されているので、ぜひご覧ください。

[やまがたの農山漁村づくり情報マガジン「農楽里（norari）」](#)



# 棚田の保全・活用のために



## 第688回 ～ワークショップを開催しました～

5月12日（水曜日）、棚田の保全・活用にむけた活動計画をつくるためのワークショップを開催しました。

今回のワークショップでは、過去に作成した事業計画のうち、棚田に関して「効果があったもの」と「あまり効果がなかったもの」について意見を出し合いました。

その後、より効果を伸ばすための提案と改善点を解消するための提案を行い、最後に各グループの成果を発表しました。



成果発表のなかで、どのグループでも課題として考えられていたのが「マンパワー不足、後継者不足」でした。

後継者不足が課題となっている地域は多くありますが、農作業に労力がかかる中山間地域ではその問題が顕著だそう。

ある参加者は「無理に移住をすすめても続かない。中山間の暮らしが好き、棚田での農作業が好きだと思っている人がきてくれたらこの問題も解決に向かうのではないだろうか」と話していました。

そのためにも、上手にPRしながら、より多くの人に情報を届けていくことが大切なんだと改めて実感しました。



# 農業用水の供給



## 第689回 ～おいしいお米が収穫できますように～

庄内地方では田植えが進んでおり、多くの田んぼで作業が行われています。

水面に近づいてみると、小さな苗が風に揺れていました。

今年もおいしいお米が収穫できますように。



庄内平野はとても広大ですが、この農地を潤している水路のひとつが「北楯大堰」です。

北楯大堰は今から約400年前に完成した水路で、庄内町から酒田市にかけての約5000ヘクタールの農地を潤しています。

水不足に苦しんでいた地域を救うため、4カ月という短期間で約10キロメートルもの水路がつくられました。

数回の補修と改修を経て、現在もなお、庄内平野の水田農業を支えています。



# 田植えのお手伝い



## 第690回 ～家根合 めだかの里米水田～

5月19日（水曜日）、庄内町家根合の「めだかの里米水田」にて、余目第一小学校4年生と地域の方々約40名が参加して田植えが行われました。

初めに、最上川土地改良区の職員の方から「田んぼの水はどこからくるのか」をクイズ形式で解説していただきました。

子どもたちは「授業で習ったよ！」「これは知ってる！」と元気よく手を挙げていました。



クイズを楽しんだ後は、いよいよ田植えです。

まずは型付け作業。初めての土の感触に大きな悲鳴が上がっていました。

最初はヌルヌルして気持ち悪いと言っていた子どもたちですが、次第に楽しくなってきた様子。

尻餅をついて泥だらけになってしまうハプニングもありましたが、無事に完了しました。



本地区では平成11年のほ場整備事業をきっかけに、地区に生息するメダカの保全活動が始まり、これまで様々な活動が行われてきました。今回の田植えもその一環であり、今後は、メダカの放流や稲刈りなどの活動が予定されています。



## 防災重点農業用ため池の点検 (2021年6月10日)

大雨や地震などの自然災害で決壊した場合に人的被害が発生する恐れのあるため池について、点検を行いました。

近年、自然災害の多発によりため池被害が発生しており、災害発生時だけでなく、平時の定期的な点検がより重要となっています。

今回は、ため池サポートセンターの専門家の指導のもと、ため池周辺を歩きながら施設の破損や堤体に異常がないかを確認し、点検時のポイントなどを学びました。

【取材：庄内PJAチーフ 佐藤(和)】





## クロメダカを放流しました (2021年6月15日)

庄内町家根合地区で、子どもたちと農家が田植えの終わった田んぼに約250匹のメダカを放流しました。

放流したメダカは「クロメダカ」で、青森県から兵庫県北部の日本海側に分布しているキタノメダカに属します。

田んぼのメダカは藻などを食べて成長し、1匹のメダカが300～500個の卵を産卵します。

今回は、子どもたちがメダカ捕獲大作戦を行って、田んぼから保全池へ、メダカを引っ越しさせます。

【取材：庄内PJA 北川】





### 部分整備による農地の区画拡大 (2021年6月15日)

庄内町高田麦地区では、30アール (30m×100m) の農地を、畦畔撤去により60アール (60m×100m) にして、作業の効率化につなげています。

あわせて、コンクリートの排水路を管路化 (地中に埋設) することにより、草刈等の作業の軽減も図られています。

地区内の農家の方からは「畦畔が無くなり、管理や草刈りが楽になった」、「排水路が管路化されて、ほ場の水持ちがよくなった」との声をいただいています。

【投稿：庄内PJAチーフ 佐藤(和)】





## 生き物調査～笹川左岸上流地区～ (2021年6月28日)

農地整備などの土地改良事業は、環境との調和に配慮して事業を行う必要があります。

笹川左岸上流地区では、農地整備事業前の地区の環境を調べるために、生き物調査を行いました。アカハライモリ（準絶滅危惧種）やマドジョウなどの生き物が確認できました。

調査結果をもとに、どのような配慮をするか検討する会を開き、環境との調和に配慮した事業計画を策定していきます。

【取材：庄内PJA 八畝】





### ラジコンヘリコプターについて学習しました (2021年6月28日)



酒田市JAそでうら選果場脇の水田で、袖浦地域環境保全組合が「水田教室」を開催しました。

市立十坂小学校5年生ら30名が参加し、ラジコンヘリコプターが行う防除作業について学習しました。

子どもたちは、防除作業の実演を見学した後、着陸したヘリコプターを取り囲んでいろいろ質問しました。

袖浦地域環境保全組合のJA青年部は、学校教育と連携した啓発普及活動として、毎年「水田教室」を開催しています。

【取材：庄内PJA 北川】





## 庄内砂丘畑のネットメロンが例年並みに成長しています(2021年7月6日)



鶴岡市西郷地区砂丘畑保全組合は、特産のネットメロン、ミニトマト、花き、赤カブを栽培しています。

砂丘畑地帯の安定的な営農環境を保全するため、多面的機能支払交付金を利用して、農道の除雪作業、ポンプ場等の水利施設の点検と機能診断を行って、老朽化した古い部品を交換する活動を展開しています。

ネットメロンの生育は例年並みで、約2,750トン、55万ケースを関東圏、関西・中部・中国圏へ出荷します。

【取材：庄内PJA 北川】







## 生き物調査～日向中部地区～(2021年7月8日)

農地整備などの土地改良事業は環境との調和に配慮して事業を行う必要があります。

日向中部地区では、農地整備事業前の地区の環境を調べるために、生き物調査を行いました。

トノサマガエル(準絶滅危惧種)やオオタニシ(準絶滅危惧種)などの生き物が確認できました。

調査結果をもとに、どのような配慮をするか検討する会を開き、環境との調和に配慮した事業計画を策定していきます。

【取材：庄内PJA 八嶽】



### 棚田地域の活性化に向けて (2021年7月15日)

鶴岡市たらのき代地区で、棚田の保全・活用にむけたワークショップを開催しました。

今回は3班に分かれ、地域の良いところと改善が必要なところについて話し合い、最後に各班の成果を発表しました。

発表では「水がきれい」「お米がおいしい」「営農に労力がかかる」「獣害対策が必要」などの意見とともに、「PR活動や技術の伝承を行う」といった提案がありました。

参加者の方からは、「初めは参加することを躊躇していたが、今後の地区のことを考える良いきっかけになったと思う。」という感想をいただいています。

【取材：庄内PJA 池田】



## 共同活動 4



(第699回)

色鮮やかな花壇がドライバーの心を和ませてください(2021年7月16日)



鶴岡市馬町米出地域保全会は、多面的機能支払交付金による農村環境保全活動に取り組んで、花の植栽を行っています。

県道の脇にある、農道と水路の敷地を活用し、景観を良くするために花々を植栽して、共同活動で草刈りとゴミ拾いも行っていてきれいに手入れしています。

梅雨が明けた青空に色鮮やかな花壇が映えて、通行するドライバーの心を和ませてください。

【取材：庄内PJA 北川】





### きゅうりの大規模園芸団地 (2021年7月21日)

鶴岡市下山添地区では、水田畑地化基盤強化対策事業により基盤造成や暗渠排水を行い、ハウスを18棟建設してきゅうりの大規模園芸団地を造成しました。

この団地ではハウスきゅうりの周年収穫を行っており、今後は地域の担い手できゅうり栽培に取り組んでいきます。

【投稿：庄内PJAチーフ 佐藤(和)】





## 子どもたちが野生メダカの捕獲大作戦を行いました(2021年7月21日)



庄内町家根合地区で、子どもたちと農家が、田んぼに放流した野生メダカを捕まえる大作戦を行いました。

この時期は、イネの根を深く丈夫にするため、田んぼから水を抜く「中干し」の時期です。

水を抜くとメダカがすめなくなるので、排水路に移動したメダカを子どもたちが網ですくい、保全池に引っ越しさせました。

大きく成長した親メダカや田んぼの中で生まれた子メダカをたくさん捕まえて、子どもたちは大喜びでした。

【取材：庄内PJA 北川】





### 農村地域防災減災事業 ～五斗畑ため池～(2021年7月27日)

鶴岡市添川地内で実施中の農村地域防災減災事業「五斗畑（ごとはた）地区」の工事についてご紹介します。

五斗畑ため池は築造後50年以上の経過により老朽化が進み、このままの状態を使い続けると、ため池決壊による被害が人家や公共施設等にまで及ぶ可能性があります。

それらを未然に防止するため、平成27年度に事業化し現在まで工事を進めています。

現在実施中の工事ではため池堤体の盛土を実施しています。

引き続き、受注者・発注者が協力し完成に向け工事を進めていきます。

【取材：庄内支庁農村整備課 佐藤（京）、投稿：庄内PJA 池田】





## 郷土への愛着や誇りを育む活動(2021年7月31日)

鶴岡市藤島地域の農村環境保全指導員 佐藤友二さんの活動を紹介します。

鶴岡市の藤島体育館北側の芝生広場にあるせせらぎ水路の清掃作業を行いました。

このせせらぎ水路は、子どもたちが裸足で水遊びする場として親しまれています。

今年の清掃活動は、地域の関係者のほか、庄内全域から多くの高校生、中学生、小学生が参加しました。

地域活動へ参加することが、地域の再発見「気づき」の場となり、郷土への愛着、誇りを育むことにつながる、と佐藤指導員は考えています。

【取材：庄内PJA 阿部】





もとたて保育園の年長組が枝豆収穫を行いました(2021年8月2日)



酒田市本楯地区 農地・水・環境保全組織が保育園児との枝豆収穫体験交流を行いました。

本楯地区は、多面的機能支払交付金による農村環境保全活動に取り組んで、令和2年度から、「もとたて保育園」年長組の子どもたちと「おつな姫」の植え付けと収穫作業を行っています。

「うんとこしょ、どっこいしょ。」「なかなかぬけないぞー！」

豊原集落のお母さんたちと一緒に枝豆を収穫した子どもたちは大喜びでした。保育園に戻って、豆を枝から外します。

【取材：庄内PJA 北川】







## 環境情報部会～笹川左岸上流地区～(2021年8月3日)

環境との調和に配慮した農地整備事業にするために、笹川左岸上流地区で環境情報部会を行いました。

部会では、環境配慮の5原則（回避、最小化、修正、影響の軽減・除去、代償）を確認し、生き物調査の結果からこの地区で保全する生き物や環境配慮方法を取りまとめました。

環境情報部会は、工事が始まると、生き物の引っ越しなどの環境配慮対策を行い、その影響を観察していきます。

【取材：庄内PJA 八畝】

「影響の  
軽減/除去」 行為期間中、環境を保護及び維持  
することにより、時間を経て生じる影響  
を軽減または除去するもの





## 「なつみず田んぼ」で生き物調査(2021年8月8日)



三川町対馬地区環境保全協議会が、田んぼに水を張った「なつみず田んぼ」で生きもの調査を行いました。

対馬地区は、多面的機能支払交付金を活用し、毎年、地区の子どもたちが親子で参加する生きもの調査を実施して、地域の環境と農業に対する理解を深める活動を継続しています。

子どもたちは、田んぼの中を端から端まで歩きながら、水の中で暮らすガムシやミズカマキリ、葉の上を飛ぶイトトンボなどの「ただの虫」を見つけて、多様な田んぼの生きものを確認しました。

田んぼには、稲の「害虫」や「益虫」に分類される虫のほか、どちらにも属さない「ただの虫」がいます。

「ただの虫」がたくさんいる「なつみず田んぼ」は、生物多様性が豊かです。

【取材：庄内PJA 北川】





## 農業用水を農地へ届けるために ～赤川頭首工～(2021年8月18日)



鶴岡市熊出にある「赤川頭首工」は、赤川の水をせき止めて鶴岡市、酒田市、三川町の約1万haの農地に届ける用水を取り入れるための施設です。取り入れた用水は水路を通して農地まで運ばれます。

大事な用水を農地に届けるためには、施設の点検、補修、草刈り、ゴミの除去などの日常管理がかかせません。

県管理施設となっている「赤川頭首工」の日常管理は庄内赤川土地改良区が行っていて、安定した農業用水を確保できるよう日々ご尽力いただいています。

山形県が発行している情報誌、農楽里vol.41（2021年夏号）に詳しく掲載されていますので、ぜひご覧ください。

[やまがたの農山漁村づくり情報マガジン「農楽里（norari）」](#)

【取材：庄内支庁農村整備課 佐藤（玲）、投稿：庄内PJA 池田】





### 日常の管理が困難になっている土水路を更新します(2021年9月3日)



酒田市田沢地域農地・水・環境保全会は、多面的機能支払交付金による、施設の長寿命化のための活動に取り組み、日常の管理が困難になっている土水路 147.6mをコンクリート水路に更新します。

土水路は、地域の田んぼの末端にあるため、上流から流れてくる土砂の堆積が常態化して、水路の水が田んぼへ溢れてしまう状況です。

県総合支庁の担当者が、水路の更新工事について計画内容を確認しました。

実りの秋を迎え、田沢地域農地・水・環境保全会は、稲刈り終了後に工事を実施して、降雪前に完了させる予定です。

【取材：庄内PJA 北川】



←土砂が土水路に堆積



## 生き物保全池～鷺畑地区～(2021年9月9日)

鷺畑地区は、平成19年度から平成24年度にかけて農地整備を行った地区です。

この地区では、環境配慮として生き物（調査時発見種：ホトケドジョウ、ニホンアカガエル、マルタニシなど）の保全池を作りました。

大きい池と小さく浅い池があり、小さく浅い池には、地元の方も一緒になって仕切り板の設置作業をして、水路のような水の流れを作りました。

現在は、地元の方々が草刈り等の管理を行っています。

施設を管理していくことは大変なことです、これからもよろしくお願いします。

【取材：庄内PJA 八畝】





## 地域一体となってメダカ保全と子どもたちの感性教育(2021年9月30日)



庄内町家根合地区の田んぼで、余目第一小学校4年生が「めだかの里米」の稲刈りを体験しました。

子どもたちは、鎌を使って、今年5月に自分たちで植えた稲を刈り取り、くい掛けしました。

最後に、落ち穂を拾って、田んぼの実りを丁寧に収穫しました。

そして作業終了後、「初めての稲刈りだったけど、手も切らずに上手にできた」、「稲刈りを体験して、みんなの役に立つと思った」、「初めて、手で稲刈りをして楽しかった」と、稲刈り体験の感想を発表してくれました。

家根合地区では、在来種のクロメダカを守るため、地域と余目第一小学校が一体となって、環境教育と農業体験活動を実施しています。

次回は、家根合揚水機場の調整池で「魚の学習会」を行います。

【取材：庄内PJA 北川】

